



コロナ禍の新たな work style

新型コロナウイルスの感染が確認されて以来約1年経過しましたが、依然として各所で影響が続いています。血液事業においても、外出自粛に伴う献血者の減少や、献血者および職員の感染防御、緊急事態宣言と新しい生活様式に基づく医薬情報担当者(MR)の医療機関訪問活動自粛など様々な影響がありました。また、多くの学会集会は中止や延期、第68回日本輸血・細胞治療学会学術総会(5/28~30, 札幌)や第44回日本血液事業学会総会(10/28~30, 広島)は誌上開催となり、現地開催からWeb開催への切り替えも増加しています。そのような状況下ではありますが、中四国ブロック血液センターにおきましても、コロナ禍の新たなwork styleを模索しています。今回は、新たな取り組みについて2つご紹介いたします。

○ オンライン面談システムの導入(令和2年9月1日)

医療機関での訪問活動制限が継続する中、中四国ブロックでは全国に先駆けてオンライン面談システムを導入しました。電話とインターネット接続可能な電子機器(パソコン、タブレット、スマートフォン)を準備していただくだけ、アプリケーションのダウンロードや登録は不要です。音声は電話で、映像(資料)はインターネット回線を使用する点に特徴があり、電話で4桁の接続番号をお伝えいただくだけで接続可能です。また、5人までの会議ツールもあり(音声、映像共にインターネット回線)、プロジェクターを使用することで勉強会や研修会への活用が可能です。

このシステムを活用することで、MRの訪問を待たず即時に双方の資料を共有しながらの面談が可能となります。お気軽にご利用いただき、血液センターから離れた医療機関の皆様ともこれまで以上に情報共有できれば幸いです。電話しながら対面以上の面談を実感していただけるに違いありません。現時点では、インターネット環境が整備されていない医療機関も少なからず見受けられます。しかし人と人との接触機会を削減するため、今後インターネットを利用する機会は一気に加速すると考えられますので、環境整備は喫緊の課題ではないでしょうか。



○ 赤十字シンポジウムのライブ配信(令和3年2月6日開催予定)

全国の赤十字血液シンポジウムが開催時期を鑑み次々と中止になる中、中四国ブロックではZoomを使用したウェビナーにて開催いたします。Web開催とすることで、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するだけでなく、聴講者の移動時間・費用も掛らず遠方からの参加も容易となります。さらに、パソコンだけでなくスマートフォンやタブレットからも参加可能なため、職場や自宅を問わず気軽に参加していただけます。事前に接続確認もできますのでご安心ください。

参集型ではないことから臨場感の希薄さや質疑応答の沈滞が懸念されますが、円滑な運営に努めて参りますので、皆様のご参加と積極的な質問や発言をお待ちしております。



全世界で新型コロナウイルスの感染拡大が進む中、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆様に、心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますように。

(中四国ブロック血液センター 学術情報課 永尾祐香里)



血液センターの医薬情報担当者

私は、愛媛センターで医薬情報担当者（以下、MR）を務めたのち、中四国ブロック血液センター（以下、ブロックセンター）で3年間MRの教育研修担当を務め、昨年より再び愛媛センターでMRとして勤務しています。本稿では、ブロックセンターの業務を経験したMRとして、中四国ブロック内血液センターのMRについて話します。

MRはそれぞれが得意とする活動があり、集合型研修など効率重視の活動を得意とする者、大学病院など大きな病院での活動を得意とする者、小規模の病院に対して輸血検査などの指導を得意とする者など様々です。



私がブロックセンター在職中に、各血液センターのMRに対して依頼したことの一つに中核病院で血液供給量の大きな変化が2か月続いた時には、それが一過性のものであるのか、継続する大きな要因があるものか調査したというのがあります。日頃から、中核病院を対象にした活動を得意とするMRからは直ぐに報告が挙がってきましたが、小規模病院を中心に活動するMRは苦勞をしつつ供給課職員の協力を得て期限内に報告してくれました。

各血液センターのMRに対して様々な調査を依頼しましたが、全てのMRが可能な限り、これに対応していました。

愛媛センターに戻った今、ブロック内MRの教育研修を担ってきた者として、彼らの活動能力を底上げすることが出来ていたのか、各MRの個性を否定してしまっていなかったかなど、自問自答していますが答えは出ていません。

私自身、改めてMRとして活動を行なってみると、これまでブロック内のMRに依頼してきたことが十分にこなせているわけではなく、いつも悩みながら活動しています。

数年前からブロックセンターでは、新しいMRの育成を行なっており、ブロックセンターが太鼓判を押す知識と技術を身に着けたMRを順次、中四国ブロック内の血液センターへ送り出しています。また、各血液センターではMRをサポートすることが出来る医療機関担当者を供給課職員から選出しています。

新しいMRには、医療機関担当者と力をあわせ、これまででないMR活動を作り上げてもらい、ブロックセンターと各血液センターを廻り広域MRとして活躍することを願います。



輸血医療を担う医療機関の皆様には、血液センターMRが広い視野を持った活動が展開できるよう、引き続き血液センターに対するご意見をいただきますよう、お願いいたします。